

第7回九州地区国立大学間合宿共同授業報告書

<https://doi.org/10.15017/21652>

出版情報：九州地区大学一般教育研究協議会議事録. 7, 1983-02-18. 九州大学教養部
バージョン：
権利関係：

あ と が き

◆第7回合宿共同授業は往路から雨が降り始め、九重研修所に近づくにつれ道路沿いの玖珠川は濁流となっていた。とくに鹿大・琉大のグループは国道3号線の一部が豪雨型の雨で冠水し通行止めとなり、途中からひき返して宮崎経由の迂回路をとってきた。両グループのバスは真夜中午前1時頃、ようやく九重研修所にたどりついた。

◆雨は期間中降り続いたが、幸い、第4日目の午後、雨雲がとぎれ、青空がのぞき、一目山登山と附近の見学および散策を日程表のとおり実施することができた。その夜からまた雨が降った。まさに天恵というべきであろうか。

◆今回の報告書には反省の弁が多い。講義中の居眠りが目だったことは残念というよりも腹が立った。参加者、とくに学生諸君にとって「交流」だけが印象に残り、合宿授業の「授業」がぼやけた観があった。

◆「フォーラム形式の講義」が今回、新しい企画として導入された。実施後、さまざまな反省（点）が語られているが、合宿共同授業という形態には、この試みが、もっともふさわしいものだと思われる。工夫を積み上げ、充実させたいものである。

◆学生諸君からは小グループの自由討議を望む声が圧倒的に多い。そこで、フォーラムから小グループの討議へ、その後でフォーラムへ戻すという折衷的方式が提起されている。

◆第8回についても、すでに企画が進められつつある。「男と女」というテーマが候補として検討されていると聞く。成功を祈る次第である。

◆この報告書のために、多数の教官・事務官のお助けをいただいた。とくに、参加教官から感想文など多くお寄せいただいたこと、にもかかわらず、編集予算の都合上、割愛せざるを得なかったものも少なくなかった、などについては、お礼とともに、お詫びを申しあげなければならない。また、九州大学渡辺正治事務官の全般にわたるご協力に、感謝する次第である。

〔編集者：園田五郎（九州大学）〕

発行年月日 昭和58年2月18日

発行者 九州大学教養部

〒810 福岡市中央区六本松4-2-1

電話 (092) 771-4161